

# 第 175 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和元年 12 月 20 日（金） 13：30～15：17

場 所：浜田市役所北分庁舎 2 階会議室 1

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 河上部長 湯浅課長（兼室長） 市原課長 牛尾室長

村木課長 外浦課長 平岡室長 原田分室長 佐々尾分室長

三浦分室長（欠席） 小松分室長（欠席）

書記：日ノ原係長 木谷主事

## 議事

### 1 教育長報告

### 2 議題

(1) 浜田市立図書館協議会委員の委嘱について（資料 1）

(2) 浜田市指定文化財候補について（資料 2）

### 3 部長・課長等報告事項

### 4 その他

(1) その他

### 1 教育長報告

石本教育長

12 月に入り、やっと冬らしくなった。今年は、インフルエンザの流行が早く起こっている。例年、1 月に入ってから学級閉鎖等が出てくるが、今年は 12 月 9 日から小中学校で学級、学年閉鎖が出てきている。今日までで、4 校で 5 つの学級、学年閉鎖が行われている。例年は、2 月初旬くらいにピークを迎えるが、長引けば大変であると思っている。学校にはうがい手洗いの励行について、先生方から指導をしてもらう様をお願いをしている。

それから、うれしいニュースを紹介する。定例会の中でもスポーツにおける児童生徒の活躍をお知らせすることが多いが、今回は文化部門における全国規模の大会において、浜田市の児童が全国 1、2 位の賞を立て続けに受賞したため、報告する。

資料をお配りしているが、まず、三階小学校 6 年の山本さんが第 69 回社会を明るくする運動作文コンテストにおいて法務大臣賞を受賞された。法務大臣賞は最高位の賞である、委員方には作文のコピーをお配りしているので、また、お読みいただければと

思う。

続いて、原井小学校1年の岡本さんが第31回MOA美術館全国児童作品展の絵画の部において、文部科学大臣賞を受賞された。これは、内閣総理大臣賞に次ぐ全国2番目の賞である。

続いて、原井小学校6年の新留さんが第25回公募日本習字展という全国規模の習字展において、文部科学大臣賞に次ぐ2番目の観峰大賞を受賞された。観峰大賞は全国で12点であるが、その中の1点に選ばれたということである。後ほど、担当課から詳しい説明をする。

次に、以前もお話をしたが、島根県の少人数学級編成の見直しについて、毎日の様に新聞に掲載をされている。今、国の基準では、小学校1年生を35人学級、小学校2年から中学校3年生までを40人学級としているが、島根県は小学校1、2年生を30人学級、小学校3年生から中学校3年生までを35人学級としており、子どもたち一人ひとりに丁寧な指導が行き届くように、そういった体制としている。今回の見直しについては、小学校1、2年生は32人学級、中学校1年生を除く、小学校3年生から中学校3年生までは38人学級、中学校1年生については中一ギャップといった問題もあるため、現行通りの35人学級とするという内容である。

現行の少人数学級編成により200人の教員が加配されている。今回の見直しにより、200人から100人に減り、それにより5億円の経費が浮くことになるが、運営が困難である学校等に新たに40人の教員を加配するため、実際には60人の教員が減となり、3億円の事業費が浮き、それを子育て施策に充てたいというのが県の方針である。

教育委員会としては、見直しを実施されると、きめ細やかな指導といった面で十分な対応が取れなくこと、また、教員の働き方改革がある中で、それに逆行するものであることで、この見直しについては反対の立場であり、市町村教育委員会連合会、都市教育長会、町村教育長会、県PTA連合会及び小中学校校長会がそれぞれ県知事、県議会議長、県教育長に対し反対の要望をしている。そういった中で、県知事と市町村長が話し合いをし、どこの市は反対であるとか、どこの市は理解を示したといったことが、新聞に掲載をされているが、教育委員会としてはあくまでもこの見直しについては反対の立場であるため、委員方にもご理解いただきたいと思っている。

ただ、施策全体のことを決めるのは、県でいえば県知事部局、市でいえば市長部局の判断となるため、推移を見ていきたい。いずれにしても、2月県議会において、十分な検討をされ、一定の方向性が出されるのではないかと考えている。仮に見直しが行われるとすれば、令和3年度からになる。

それではお手元の資料に基づいて1か月間振り返っていきたいと思う。

① 11月19日（火）第174回浜田市教育委員会定例会（2階会議室）

② 11月22日（金）文部科学省人権教育研究指定校・研究発表会（第三中学校）

第三中学校が人権教育研究指定校を平成30年度、令和元年度と受けており、その成果発表が開催された。県内の小中学校から100人の先生方が集まられた。午前中が研究授業、午後からは第三中学校では「にこにこフォーラム」といった呼び方をしているが、いわゆる人権集会が行われた。

午後からの「にこにこフォーラム」は第三中学校では、今回で63回目であり、かなり以前からこの取組を行っている。年にだいたい3回開催されるとのことで、およそ21年も取り組まれている。生徒会が運営をされており、全校生徒、地域の方々及び保護者方合わせて400人以上の参加があった。

③ 11月22日（金）第22回全国小学生クロスカントリー研修大会出場者市長表敬（庁議室）

この大会は、今回で最後ということである。22回の大会のうち、浜田のチームは今まで8回出場している。8回の中で、最高成績は全国7位ということであったが、今回は全国20位であった。資料にある、三階小6年の山根さんは6区で区間3位であったそうで、健闘をされている。

今、全国で活躍している三浦龍司さんもかつてはこの大会で区間2位という記録を出しているため、山根さんも今後、活躍するのではないかと考えている。

④ 11月22日（金）第69回石見地区山光会展（～24日・サンマリン浜田）

山光会は東光会の山陰支部であり、その展覧会が行われた。東光展や日展に出品をされた大作も多数あり、迫力ある作品や繊細な作品を楽しく見させていただいた。

- ⑤ 11月25日(月) 令和元年度島根県各種功労者表彰式(サンラポーむらくも)

前回の定例会でもお話をしたが、浜田市の教育関係で3人の方及び1団体が受賞されている。その中のひとりに、宇津教育委員もおられ、学校教育及び教育行政の功績により受賞をされている。宇津委員おめでとうございます。

そのほかに、中学校の校長先生をされていた金本氏、長浜幼稚園の園医をしていただいている山根氏、それから、団体として有福神楽保持者会が表彰を受けておられる。

- ⑥ 11月29日(金) 美川連合自治会陳情(庁議室)

市長に対しての陳情があった。現在、美川小学校、第四中学校については統廃合の関係で数回説明会を開催しているが、そういったことに対する、地元からの要望である。委員方には資料をお配りしているが、内容については、美川小学校と第四中学校を一体化した複合型校舎の建設をしてほしいという要望である。

平成20年以降、美川の地域からは2回の陳情を受けており、小中一貫校をつくってほしいということであったが、平成25年の要望に対する回答で教育委員会としては前向きでないといった回答をしていたため、今回の要望については、小中一貫校ではなく小中学校の複合型校舎の建設の要望であった。

当日、市長から、これから策定する学校統合計画の中で検討するといった回答をしている。

- ⑦ 12月2日(月) 12月市議会定例会議・提案説明・全員協議会  
12月3日(火) 12月市議会定例会議・一般質問(1日目)  
12月4日(水) 12月市議会定例会議・一般質問(2日目)  
12月5日(木) 12月市議会定例会議・一般質問(3日目)  
12月6日(金) 12月市議会定例会議・一般質問(4日目)

今回も、教育委員会に対して多数の一般質問があったが、その中でも、歴史文化保存展示施設に対する質問が多く寄せられた。後ほど、部長から報告する。

- ⑧ 12月5日(木) 令和2年度島根県市町村小中学校校長・教頭採用昇任候補者選考試験(第二次)結果発表

校長の採用昇任試験は、浜田市の小中学校から13人受けられ、1次に合格したのが6人、最終試験の合格者が3人であった。教頭の採用昇任試験は11人が受けられ、1次に合格した

のが9人、最終試験の合格者が5人であった。昨年は校長が6人、教頭が11人合格されたため、半分程度の合格者となっている。それぞれ、来年度の候補者の名簿に登載された。

⑨ 12月5日(木) 女子ラグビーNZ海外遠征・ユース日本代表市長表敬(市長応接室)

石見智翠館高校の女子ラグビー部の笹田さんが、高校生の日本代表に選ばれ、ニュージーランドで行われた強化合宿及び大会に出場をされた。世界の強豪チームが出場した中、日本チームはこの大会で準優勝ということであり、大変すばらしい結果である。

⑩ 12月8日(日) 第28回浜田～益田間駅伝競走大会(しおかぜ駅伝)

優勝候補であった浜田チームは、今年は4位という結果であった。途中、トップで走っていたときもあったが、最終的には4位であった。4位も素晴らしい結果であるが、選手の皆さんは非常に残念がっておられた。

また、金城が10位、旭が17位、弥栄が19位、三隅が27位であった。今大会はどのチームも中学生の活躍が目立っており、今後が大きく期待できると感じている。

⑪ 12月10日(火) 令和元年度島根県学力調査(各小中学校)

4月に全国学力調査が実施され、その結果に基づいて、各学校では、半年間、課題を補強し、その成果をこの学力調査で試すことができたのではないかと思う。結果については1月末頃に出るとのことである。

⑫ 12月15日(日) 令和元年度浜田市学校保健会講演会(市総合福祉センター)

講師は島根大学医学部附属病院講師の守田美和先生であり、「1型糖尿病を持つ子供たち」という演題で講演いただいた。2型糖尿病は、私もそうであるが、生活習慣に問題のある病気であり、食事療法や運動療法といった治療があるが、1型糖尿病は生活習慣とは関係なく、原因がはっきりしてない部分があるそうだが、1つはウイルス感染によって肝臓の細胞が破壊されることによっておこる。必ず食事の前にインシュリン注射を打たなければならない、注射をすれば普通に生活が送れるそうであるが、阪神タイガースの岩田投手は中学生くらいからずっと注射を打ちながら野球を続けているそうである。

そういった、1型糖尿病の子どもが学校に何人かおり、学校での先生方の支援、家庭での支援についての注意点についてお話があった。学校の養護教諭、ドクターの方、保護者の方合わせて100人近い方がこの研修に参加された。

⑬ 12月18日（水）令和元年度浜田市人権作品コンクール表彰式（浜田公民館）

23人の方を表彰した。委員方にも参加いただきありがとうございました。

⑭ 12月19日（木）第6回浜田市図書館を使った調べる学習コンクール表彰式（中央図書館）

16人の児童生徒を表彰した。この16人の作品については全国コンクールへ応募をしている。1月上旬に結果が分かる。ここ何年間か、全国コンクールでも良い賞を受賞しているため、今回も期待している。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

藤本委員

先ほどのお話であった、石見智翠館高校の女子ラグビー部の笹田さんが市長表敬に来られたとのことであるが、浜田の方か。

石本教育長  
宇津委員

そうである。

校長、教頭採用昇任候補者選考試験の最終合格者について、校長3人、教頭5人とのことであったが、このうち、浜田市出身の方は何人か。

石本教育長

校長は3人のうち2人、教頭は5人のうち4人が浜田市出身である。

藤本委員

インフルエンザの関係で、現在、4校が学級、学年閉鎖をしているとのことであったが、傾向としては、広がりつつあるのか、横ばいの状態なのか。

石本教育長

例年、西の方から広がってくるということがあるが、今年も最初は周布小学校、続いて、第二中学校、松原小学校、石見小学校ときいて、例年からみてもだんだん広がっているのではないかと思っている。ただ、このまま広がり続けるのか、それとも、一旦終息をして、例年通り、また1月中旬から2月上旬にかけて、広がるのか分からない。

藤本委員

テレビでもマスクの着用が言われているが、私は、マスクは自

石本教育長 藤本委員 石本教育長 藤本委員	<p>分の予防のためとっていたが、医者によっては違う意見もある そうだ。</p> <p>一般的には、人にうつさないようにするものではないか。 その様である。</p> <p>一番いいのはお互いが着けておくことである。</p> <p>これは別の話であるが、昨日、ある説明会に参加したが、説明 者がマスクを着けており、聞き取りづらかった。やはり、説明会 などでは説明者はマスクを外して話すべきである。</p>
石本教育長 各委員	<p>その他はよろしいか。 特になし。</p>

## 2 議題

### (1) 浜田市立図書館協議会委員の委嘱について（資料1）

村木課長	<p>資料をご覧ください。今回の委嘱については、所属団体の 異動または役員の変更により、3人の方の変更があったため、新た に委嘱を行った。図書館協議会については、図書館の運営に関し 館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、 館長に対して意見を述べるといった組織である。</p> <p>この度、会長の井上委員が別枝委員へ交代された。また、岡本 委員については、公民館連絡協議会の組織内の変更により、瀧口 委員へ交代された。また、吉本委員については、浜田商工会議所 の副会頭の交代により、今井委員へ交代された。</p> <p>なお、委嘱期間はそれぞれ残任期間を引き継ぐということで、 令和2年3月31日までとなっている。予定としては、1月末に第 2回協議会を開催予定であるため、本日、承認いただければ委嘱の 手続きを進めさせていただく。</p>
石本教育長	<p>ただ今、説明があった。3人の委員が所属団体の役員の変更等で 交代されるということである。岡本館長は公民館連絡協議会の会 長であるか。</p>
村木課長 石本教育長 村木課長	<p>会長である。今回は、副会長の瀧口館長が委員をされる。 瀧口館長はもともと、国語の先生である。</p> <p>現在は図書館との関わりもあって、副会長であるが、調整によ り瀧口館長が委員をされる。</p>
石本教育長 各委員	<p>質問等あるか。 特になし。</p>
石本教育長	<p>この3人の方々に図書館協議会委員として委嘱をするというこ</p>

各委員

とでよろしいか。  
全会一致で承認

(2) 浜田市指定文化財候補について（資料2）

石本教育長

資料2について、今回は、古文書1件、考古資料3件、史跡1件ということで、合計5件が浜田市指定文化財候補として挙げられている。文化振興課から説明をお願いします。

外浦課長

この5件の浜田市指定文化財候補について、承認いただければ、文化財審議会の方で審議をしていただくという流れになる。

1つ目は、金城たたら関係文書である。これは金城歴史民族資料館で展示をしている。江戸時代寛永期から明治初年の鉄穴流し、たたら製鉄、鍛冶、売買に係る一連の資料であり、石見地域のたたら歴史を知る上で、貴重な史料である。資料に関係文書概要一覧があり、総点数の合計が6,439点であり、そのすべてが指定文化財になるかは分からないが、候補として挙げている。

2つ目は、重富廃寺出土品である。これは、旭歴史民俗資料館、旭ふるさと歴史公園、浜田市教育委員会にある。白鳳時代末から奈良時代頃の古代寺院である重富廃寺から出土した古代瓦である。丸瓦、平瓦など、特徴的な造り方をされており、石見地区において、初期古代寺院での瓦生産技術のつながりを知るうえで重要なものである。

3つ目は、同じく考古資料である奥の原古墳群出土品である。現在、弥栄会館において支所展示を行っている。弥栄町にある、奥の原古墳群から出土した壺棺である。奥の原古墳は古墳時代前期のものであり、壺棺については類例が少なく、特に山間部の古墳文化の始まりと小規模古墳の様相を知る上で重要な資料である。

4つ目は、千年比丘1号墳出土品である。これも考古資料で、金城歴史民族資料館にある。次に説明する、金城町波佐にある千年比丘1号墳から出土した土器片と砥石である。石見地域では前期古墳の調査例が少ない中、山間部の古墳文化の始まりと小規模古墳の埋葬儀式の様相を知る上で重要な資料である。

5つ目は、千年比丘1号墳である。金城町波佐にある円墳であり、旧金城町時代の平成3年から5年まで金城町教育委員会により調査を行っている。丘陵上に造られた直径15m、高さ2mの円墳で、中央の墓穴で木棺の痕跡が確認されるなど、山間部の古墳



	文化を知る上で重要な資料と考えている。
石本教育長	以上、5点を浜田市指定文化財候補として考えている。 ただいま5点の指定文化財候補について説明があった。 質問等があればお願いします。
藤本委員	事前に、資料を送っていただき、確認したが見方が分からないところがある。最初のページで総点数が6,439点とあるが、1点というのは冊子が1冊あるということか。
外浦課長	そうである。
藤本委員	そうすると非常に多くのものがあり、整理するのが大変である。
外浦課長	今、整理をしており、ある程度整ったため、ご紹介している。
藤本委員	また、2ページ目に重富廃寺出土品であるが、これは旭町の資料館にあったと思うが、こちらに移管をするということか。
外浦課長	移管はしない。
藤本委員	そのまま展示されるのか。
外浦課長	そうである。
藤本委員	承知した。
石本教育長	5点目の、古墳の関係であるが、平成3年から5年までの間で、金城町教育委員会で調査が行われて、その後、別に何もなかったと思うが、今回文化財として諮問にかけ理由があるのか。
外浦課長	現在まで、継続して調査は行われていた。
石本教育長	その中で、4つ目の出土品が出てきたため、古墳も一緒に諮問にかけるということか。
外浦課長	そうである。また、今回、所有者の方が判明したこともある。
石本教育長	承知した。 また、1ページ目で名称の欄では「佐竹家文書」となっているが、表の中では「佐竹屋文書」となっている。どちらが正しいのか。
外浦課長	確認しておく。
石本教育長	他に質問等よろしいか。
各委員	特になし。
石本教育長	それでは、説明のあった5点の文化財候補について、文化財審議会へ諮問するという事によろしいか。
各委員	全会一致で承認
石本教育長	それでは、この5点について文化財審議会へ諮問し、文化財として指定するかどうかを検討していただく。

外浦課長

今月中に諮問するのか。  
来週である。

### 3 部長・課長等報告事項

河上部長

令和元年度一般会計補正予算（第4号）説明資料（資料3）

資料をご覧いただきたい。12月定例議会へ出した、一般会計補正予算（第4号）の資料である。1ページ目の補正事項の欄に、主な補正事項が挙がっている。

教育部の補正予算については、裏面の教育費の欄に記載している。公民館施設改修事業については財源の振替である。文化振興事業については、不用額の調整であるが、三隅で予定していた事業が、実施主体の方で対応ができないということもあり、今年度は事業が行えないということで、650万円の減額をしている。運動施設改修事業については、旭の運動施設における入札減に伴う不用額の調整及び財源振替である。いずれも、議会において承認をいただいている。

個人一般質問 通告一覧（令和元年12月定例会）（資料4）

12月定例議会における通告とそれに対する答弁書の原稿である。今回も多く質問をいただいております、特に歴史文化保存展示施設に関してのご意見の中で、趣旨なり、賛否両論の意見を多くいただいている。

今回、名称を変更した点や浜田郷土資料館の建替えという方向転換をしているため、そういったことに対する質問、意見等をいただいている。

その他にも、いじめの問題やスポーツ施設に関する質問等いただいている。

また、教育委員会だけではなく、議員方からの一般質問に対する回答について、全庁として進捗管理をするということで、通知も来ている。内容によっては、すぐ対応できるものからそうでないものまでであるが、進捗管理については、今後しっかり行う必要があると思っている。

湯浅課長

行事予定表（資料5）

12月20日から1月31日までの予定を掲載している。委員方へ出席いただくものとしては、1月3日の令和2年浜田市成人

市原課長

式、1月27日第176回教育委員会定例会となっている。

少人数学級編成の見直しに伴う影響について（追加資料）

島根県教育委員会が示した少人数学級編成の見直し案に対する浜田市の影響についての資料である。

これまでの経緯について、島根県では、平成28年度に現在の少人数学級編成が完全実施され、国の基準と比べると、手厚い支援を受けることができる。また、それによって教職員がきめ細かく対応でき、業務量の軽減にもつながっていたが、見直しにより、そのあたりの負担が増えるのではないかと心配している。

県内の市町村教育委員会や関係団体により、島根県教育委員会に対し、現状維持を要望している。また、県PTA連合会から市PTA連合会に署名活動がおりてきて、1月10日までに県PTA連合会へ署名を送ることになっている。

資料裏面の、下の表で学年別の国基準、県基準（現行）、県基準（見直し後）ごとの1学級の人数を載せている。見直し案としては、令和3年度に、小学校2年生が30人から32人、小学校5、6年生、中学校3年生が35人から38人、令和4年度に小学校1年生が30人から32人、小学校3、4年生、中学校2年生が35人から38人にし、2年かけて、この8学年を見直し案となっている。中学校1年生については、中一ギャップの問題もあるため、見直さないこととなっている。

この基準に基づき、上の表を見ていただくと、令和3年度の見直しにより、浜田市では、小学校が4学級減る。また、令和4年度の見直しにより、小学校で7学級、中学校で1学級の計8学級減り、中でも、原井小学校は4学級減ることとなる。県東部の方でも、このくらい減る学校も出てくるそうである。

冒頭、教育長からも話があった様に、今回の見直しにより、現行の少人数学級編成により加配されている200人の教員が100人に減り、それにより5億円の経費が浮くことになるが、この様に一度に学級数が減る学校等に新たに40人の教員を加配するため、実際には60人の教員が減となり、3億円の事業費が浮き、それを子育て施策に充てたいというのが県の方針である。

この問題が、どの様になるかは分からないが、実施されると

現場は非常に困惑すると感じている。

保幼小接続期のカリキュラムについて（資料6）

この資料は、保幼小接続期のカリキュラムについて、現在、どの様な取組をしているのかという内容である。

資料が、①から⑩までであるが、①については、なぜこの取り組みをしなければならないのかということについて、保育所保育指針や幼稚園教育要領において明記されているという資料である。

資料②については、島根県教育委員会から、スタートカリキュラムを作成するために示された資料である。

資料③から⑧までが、資料①、②に基づいて、どうやって浜田市のカリキュラムを作成していくかということ整理した資料である。資料③は下から、幼児教育、小学校教育を経て浜田市教育目標へつながっていくことを示した資料となっている。資料④は、表の真ん中の幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿という区分けで、左側は保育園、幼稚園のアプローチカリキュラム、右側は小学校のスタートカリキュラムという形で連動した取り組みを整理した表となっている。資料⑤は先ほどの、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、1つずつアプローチカリキュラムの記載例を掲載している。資料⑥は、小学校が、今までのことを受けて、入学式以降、4、5月のところでどのようなことを行うのかを整理した表である。資料⑦は、今も実施されている週案という簡単なスタートカリキュラムがあるが、これに今までのことを踏まえた、具体的な指導内容などを記載した記載例となっている。資料⑧は、保幼小の交流、連携について、どの様なことを行うかの例について、月ごとに示した資料である。

以上の資料については、11月に幼稚園長会、保育園長会、12月に校長会、教頭会において、仙田指導主事から細かく説明しており、現在、カリキュラムの作成を行っているところに、この様な考えをもって作成を行う様にお話ししている。

また、不明な点、意見などがあれば、資料⑩の用紙に記入してもらい、修正していくため、提出していただくこととしており、今、取組み始めているところである。

基本構想や、計画について申し上げたが、教育委員会として

方向性が定まれば、今後、お諮りして正式に進めていきたいと思っている。

#### 各種全国表彰について（追加資料）

冒頭で教育長からも話があったが、今回、続けて3件の全国表彰があったため報告する。

まず、三階小学校6年の山本さんが第69回社会を明るくする運動作文コンテストにおいて全国1位である法務大臣賞を受賞された。小学校の部、中学校の部でそれぞれ1人が、法務大臣賞に選ばれている。東京に本人とご家族1人が招待され、表彰が行われるそうである。また、このコンテストについては、松江保護観察所が県の担当であり、今朝、担当課長から聞いたが、今後、県知事表敬訪問、浜田市長表敬訪問を実施していきたいとのことであった。作文については、委員方にはお配りしており、また、法務省のホームページで今日から公開されている。非常に良い作品であるため、全児童、全生徒に配布したいと考えているし、図書館教育を始めとした取組の良い影響が出ていると考えている。

また、原井小学校1年の岡本さん、原井小学校6年の新留さんがそれぞれ、絵画と硬筆習字の部門において、全国2位にあたる賞を受賞している。

議会にもこのようなニュースを報告してほしいという話があったため、また、報告したいと思っている。

園長、校長合同研修会の資料の説明は良いか。

委員方に案内をしているが、1月9日に園長・校長合同研修会があり、島根大学の長特任教授にお越しいただき、「これからの学校を考える」という演題で講演をいただくということで、校長会から案内をいただいている。委員方についてもご都合がよろしければ、是非ご参加いただければと思う。よろしく願います。

石本教育長  
市原課長

牛尾室長

#### 第8回（12月）市校長会資料レジュメ（資料7）

12月の校長会、教頭会で伝えた内容について報告する。

項目1について、小中連携教育目標であるアンケートを小学校6年生、中学校3年生を対象に、11月に実施しており、その結果のまとめである。資料Aをご覧ください、いわゆるメディ

ア接触であるが、「2 時間以上テレビゲームをする子どもの割合」について、まだ目標に比べて多い状況である。「普段、1 日あたり 1 時間以上家庭学習する、子どもの割合」について、少しずつ上昇している。中学生は 2 年連続、60%を超えているが、全国と比べるとまだ低いため、目標値を上方修正して、家庭学習の充実に取り組んでいく。

「自分には良いところがあると思っている子どもの割合」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合」については、悪い数値ではないが、目標値に届いていないため、改善の取組が必要である。

「総合的な学習の時間で学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」、「総合的な学習の時間に、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」については、大変増えてきたため、目標値を超えているものについては、目標値を上方修正し、取り組んでいく。調べ学習も含め、図書館活用が 6 年目を迎え、ふるさと郷育の探究的な取組も充実してきており、ここは浜田市の強みであると思っているため、目標値を上方修正して強化していきたい。

項目 2、浜田市児童生徒の読書週間の状況と推移である。10 月の校長会で、「子どもの脳の発達と読書」（川島隆太氏の講演から）の情報を提供した。併せて、浜田市の子どもの、ここ数年の読書週間の状況について、改めて確認した。資料 B をご覧いただき、グラフを載せているが、青が浜田市の平均、赤が全国平均であり、平成 28 年度から令和元年度まで載せている。まず、小学 6 年生の「平日の読書時間 30 分以上の割合」であるが、全国に比べて低い。次に、中学校 3 年生の「平日の読書時間 30 分以上の割合」については、平成 30 年度、令和元年度においては、全国平均を上回っている。

また、小学校 6 年生の「平日の読書時間『全くしない』の割合」については、全国平均を上回っており、中学校 3 年生の「平日の読書時間『全くしない』の割合」については、全国平均を下回っている。

つまり、統計上では、浜田市においては、小学校は全国よりも読書しておらず、中学校は読書していることが見えてきた。

小学生の読書習慣を定着させるために、学校司書が配置されているが、担任等と連携して手立てを工夫するなど、個別的な

対応が必要である。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日まで）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問項目と教科とのクロス集計を見てみると、小学校6年生については、国語、算数ともに、読書習慣のある児童が、高正答率の傾向にある。また、読書を長時間（2時間以上）している児童よりも、30分以上から2時間より少ない児童が、高正答率の傾向にあった。つまり、睡眠時間を削るような読書習慣は良くないが、30分以上の適切な読書習慣が有効である。

中学校3年生については、正答率の差に大きく影響する境界が、読書を「全くしない」か「10分から30分より少ない」であり、時間よりも読書するかしないかが影響している。

以上から、小学生には、「読書をする習慣が心地良いこと」「読書の面白さ、楽しみ」を実感させること、中学生には、「10分でも、本や新聞を読む習慣」を持たせることが大切である。今、どの学校でも、朝読書、読み聞かせを行っており、小学校では週に1時間、図書館の時間を設け、図書館に行って読書活動を行っている。この活動が、本当に有効になる様にとということをお伝えした。

項目3について、来年度から新学習指導要領が小学校で完全実施となる。それに伴い、指導要録も新しくなるため、新しいもののデータを作成した。これを、手引きとともに各学校に配布して、3学期中に説明を行う。

項目4について、読み聞かせが「将来の学力」を上げるということで、『本の読み方』で学力は決まる」という、川島隆太氏監修の本であり、項目2で触れた講演会と趣旨は同じである。読書ももちろん大切であるが、読み聞かせについても、特に低学年の児童にとっては非常に重要である。「では、読み聞かせは高学年児童や中学生にはもう遅いのか」という声もあったが、数年前に読んだ本を思い出した。「本を読んで甲子園へいこう！」という本であり、常葉学園橘高校の実践であった。兄弟校の菊川高校は甲子園常連校であるが、橘高校は甲子園に出たことがなく、毎年、1、2回戦で敗退していた。著者が橘高校で、読み聞かせを行っていたところ、野球部の監督から、野球部員に対して、読み聞かせを行ってほしいとの申し出があった。そうすると、今まで話が聞けなかった部員が、人の話が聞けるように変わり、生徒自身も監督の指示を機械的に聞いてい

たレベルから、聞いたことを頭で理解して身体が動くようになったという様なことであった。結局、この年の大会で、決勝まで進むが、準優勝ということで、ドラマの様にはいかなかったが、高校生に対しても読み聞かせが十分有効であるということをお伝えした。

項目5について、今年度の学力向上推進室による教育委員会学校訪問について、学校への通知を載せている。

項目6について、第6回浜田市調べる学習コンクール審査結果について、資料をご覧いただき、16人の児童生徒の作品を全国大会に推薦し、昨日、表彰式を行った。現在、6回目であるが審査員の方と年々レベルが上がってきており、調べ方も慣れてきて、充実した作品となっているという話をしたところである。また、身近な生活からの疑問や地域の自然、生物に目を向けたものも多く、特にふるさと郷育につながっていると感じている。そこに、学校司書の力量が大きく関わっており、学校司書に対する研修も行っているが、調べる学習について大きく寄与している。また、新学習指導要領の新しい教科書を見てみると、どの学年にも調べ学習についての単元が入っているため、情報活用能力が求められるが、その一つとして図書館活用は、浜田市の大きな柱として定着していきたいと思っている。全国大会の結果は、来年1月9日13時にホームページで公開される。

村木課長

令和元年度全国スポーツ推進委員連合スポーツ推進委員功労者等表彰について（資料8）

全国レベルの表彰のあった方をご報告する。

まず、伏谷スポーツ推進委員が、11月14日に三重県津市で全国スポーツ推進委員連合から、功労者表彰を受けている。昭和60年から34年間に亘りスポーツ推進委員として活躍をされており、平成27年に30年間の永年表彰を受けているが、この度、公民館長をされていることもあり、多くの事業展開をされており、功労者表彰を受けている。

次に、栗栖社会教育委員が、10月24日に兵庫県神戸市で、全国社会教育委員連合表彰を受けている。平成14年から17年間社会教育委員として活躍されている。



しまねの社会教育フォーラム 2019 における実践発表について  
(資料 9)

11 月 23 日に出雲市の島根県立青少年の家サンレイクで開催され、94 人の参加があった。石見公民館の江木公民館主事が「わたしのまちで生き生きと暮らすために」という演題で実践発表をされた。特に、石見公民館は、過去に石見公民館に本部を置く、第一中学校区学校支援地域本部が文部科学大臣表彰を受けており、まさに江木公民館主事が被受賞者団体の代表として授賞式で挨拶をしている。講師の志々田先生からも、地域と学校をつなぐ役割を公民館が担っていることは全国的にも特徴的な取組であるとの講評があったところである。

令和元年度 島根県公民館研究集会について (資料 10)

昨年、浜田市立三隅中学校で開催された島根県公民館研究集会が、この度、島根県立青少年の家サン・レイクで開催される。公民館の実践発表ということで、浜田市からは長浜公民館、三隅公民館、今市・木田・和田公民館の 3 館連携事業の公民館が実践発表をすることになっている。

長浜公民館においては、「八朔花祭り」という 1 つのテーマをもって、地域の住民組織や高齢者団体と連携しながら地域のつながりを作っていくという事業の報告を行う。

三隅公民館においては、まさに今コミュニティセンター化の話をしているが、まちづくり協議会の事務局を担っている中で、学びを通して「防災」をテーマとして、地域課題を解決する。子どもから始まり、大人につながっていくというところのポイントについて説明をする予定である。

また、今市、木田、和田公民館の 3 館連携事業については、まさに公民館の力であるつなげること、住民が集うしかけ、つながるしかけを「ふるさと地域学習」を通してつなげていき、課題解決のきっかけづくりといったところを説明する予定である。

日時であるが、令和 2 年 2 月 22 日 (土) に実施予定である。

「第 11 回セントラル杯浜田市スポーツ少年団野球大会」  
(新人野球大会) 大会結果について (資料 11)

第 11 回セントラル杯が、三隅中央公園野球場と旭公園市民

球場で開催された。この大会の特徴は、浜田市内のスポーツ少年団の野球の5チームの新人戦ということで、それぞれ新しいチームでの大会である。

優勝は国府野球スポーツ少年団で、準優勝は三隅少年野球クラブである。

「浜田市 軽スポーツの集い（バウンスボール大会）」の開催について（資料12）

三階小学校の体育館において50人弱の方々が、それぞれ一般の部とファミリーの部に参加をされている。軽スポーツを通して、地域の集いや、親子の絆を今一度確認するものである。こういった大会が他の自治区においても色々と開催されている。

第28回浜田ー益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）の結果（資料13）

参加チーム数は、昨年と同様で38チームであり、結果は資料のとおりである。今回は距離を若干伸ばして、旧お魚センター付近のコースを大きく変更している。それぞれ区間賞、敢闘賞、ホープ賞等を掲載している。浜田市の走路において、職員、地元の方、体育協会の方にご協力いただき、成功に終わったところである。

「広島東洋カープ佐々岡真司監督就任」に係る懸垂幕の掲揚について（資料14）

懸垂幕掲揚ということで、12月2日から浜田市役所本庁舎正面玄関の右手側に、資料の様な懸垂幕を掲げている。

掲揚期間としては、令和2年2月28日までの予定である。

また、裏面をご覧いただき、先般、佐々岡監督が市長表敬にいられた様子を掲載している。あいにくの雨であったため、ロビーでのお出迎えになったが、約150人の職員が佐々岡監督を迎えて、監督と同級生である職員が花束贈呈を行い、セレモニーをさせていただいた。

3階の市長応接室にて市長表敬を行い、多くの関係者の方々が激励をされ、来年度の優勝に向け祈願した。

外浦課長

石州半紙技術者会 会長の文化庁長官表彰について（資料 15）

文化の振興に貢献された方々に対し、その功績をたたえ、令和元年度の文化庁長官表彰を、石州半紙技術者会長である西田誠吉さんが受賞され、表彰式が行われた。

日時は 12 月 6 日、場所は文部科学省第 2 講堂で行われたところである。今年度は個人で 74 件の表彰があり、選考方法は、有識者による選考会議において候補者を選び、文化庁長官が決定するというので、市からの推薦はなく、文化庁が直接選定を行っている。

西田さんの功績の概要としては、永年に亘り、手漉和紙製作技術者として石州半紙の製作に携わるとともに、重要無形文化財「石州半紙」の保存及び伝承者養成に尽力し、我が国の文化財保護に多大な貢献をしている。

これまでには、平成 21 年度に石州半紙技術者会から川平正男さん、平成 25 年度に久保田彰さんが受賞されている。

平岡室長

令和元年度 浜田市人権作品コンクール入賞者一覧表  
（資料 16）

表彰式は 12 月 18 日に開催し、委員方にも出席をいただいた。ありがとうございました。この一覧表は、例年、表彰式前の 11 月の定例会で報告しているが、今年度は学校との調整が遅くなり表彰式開催後の報告となったことを、お詫びする。

作品については、現在市役所本庁の 1 階ロビーに展示しており、ご覧いただければと思う。

令和元年度 浜田市人権・同和教育映画上映会（資料 17）

浜田市人権・同和連絡協議会が主催する映画上映会のお知らせである。「みんなの学校」という映画で、木村泰子先生が校長をされていた、大空小学校を舞台とした映画である。

木村先生に、浜田市に来ていただきたいという声が挙がり、色々と調整し、映画と講演会を切り離して、今回は映画の上映のみとしたところである。木村先生は、来年 8 月のふれあいフォーラムで浜田市に来られることになっている。映画は、2 月 15 日（土）に石中央文化ホールで上映するため、是非ご来場いただければと思う。

石本教育長	ありがとうございます。以上資料 3 から 17 までの資料のあるところについては報告いただいた。資料がない課で報告事項等あるか。
各課長	特になし。
石本教育長	今、部課長方から資料 3 から 17 までの報告があった。これについて委員方から質問等あればお願いします。
	質疑応答
藤本委員	資料 5 の行事予定表のところで、1 月 26 日に例年、書初め展の表彰式があり、教育委員にも案内をいただいている。記載があった方がいいのではないか。
宇津委員	私も毎年出席しているが、教育委員会を通さずに届いている。そのため、教育委員会の方はキャッチできないのではないかなという気がしている。
石本教育長	私にも届いており、決裁が回っているため、漏れである。
藤本委員	また、今日、案内をいただき、行事予定にも記載がある 1 月 9 日の園長・校長合同研修会であるが、我々教育委員も都合がつけば出席してほしいということであるが、できれば出席をしてお話を伺った方が良いと思っている。そのため、出席予定として、丸印があった方が良い。
石本教育長	資料 10 の島根県公民館研究集会であるが、これはバスを使って、各公民館から参加者を集って行くのか。
村木課長	28 人乗りの公用車を予約しており、公民館はコミュニティセンター化部会の方にも声を掛けて参加していただきたいと思っている。
石本教育長	承知した。是非多くの方に参加していただきたいと思うため、よろしくお願いします。
村木課長	承知した。
石本教育長	資料 16 の人権作品コンクールの関係であるが、今年はポスターの応募をする学校が少なく、中学校は 9 校中 2 校しか応募していないと思うが、何か理由を聞いているか。
平岡室長	聞いてはないが、浜田市開府 400 年の作文の関係で夏休みの宿題が多かった。例年では、60 点くらい応募があるが極端に少なかった。
石本教育長	例年の 3 分の 1 くらいである。来年度にお願いされるときには 1 点でも多くの作品が出るように働きかけをお願いします。

平岡室長 金本委員 市原課長	承知した。 社会を明るくする作文も夏休みの宿題である。 社会を明るくする作文は保護司会が直接学校に持って行って お願いしている。
石本教育長	市内でどれくらいの作品の応募があったのか。先ほどの資料に 記載していなかったか。
市原課長 宇津委員	資料に掲載しているのは、全国の応募数である。 少人数学級編成の見直しに関わる問題であるが、資料にあるよ うに、令和元年度児童生徒数を基に試算すると、令和3年度は小 学校が4学級減、令和4年度は小学校が7学級減、更に中学校で 1学級減とあるが、とてつもない数字である。
石本教育長	令和4年度の8学級減の中に、令和3年度の4学級減も含んで いる。それにしても大きい。
宇津委員	これは、大変なことだなという気がしている。要は子どもたち に、どの様な不幸せな場面が起こり得るのかと考えた時に、教育 委員会が方針を打ち出している様に、教育の現場が踏ん張って、 これを何とか食い止めないといけないという気がしている。 お金の問題も確かにあるかもしれないが、お金だけの問題では ないと思っている。また、特別な支援を要する子どもたちが年々、 増えてきている現状の中で、先生方が非常に苦労をなされて、そ れに更に輪をかけた様な状況が生まれてくる気がしている。ひい ては、子どもたちが不幸な目にあうことにつながってくる。 財源をこれ以外のところで捻出する方法がないのかは、考えて おられるとは思いますが、何とか踏ん張ってほしいという思いであ る。
石本教育長	実は来週の月曜日に、県の教育長が来られて、1時間の意見交 換をする予定である。各市町村の教育委員会を回られて、やはり 直接、教育長の話を知りたいということで、しっかり教育委員会 としての思いを伝えたいと思っている。 今、県のPTA連合会が署名活動をしている。今日が提出の締切 であり、それを1月早々にまとめて、県知事、県議会議長、県教 育長に要望を出される。仮に、県下を挙げて保護者が反対である という様な形になると、県知事の思いも多少は変わるかもしれ ない。他市については、松江、出雲は30学級くらい減り、教員が 30人減るということになる。これは子どもに対する教育が当然、 第一であるが、学校運営上も大きな痛手になる。その辺りも含め

	て、冒頭にも話したように教育現場の働き方改革といわれている中で、どう考えてもこれは逆行する取組であり、見直しについては何とか阻止していかなければならないという思いである。もしかすると、県も結論を出すことを先送りして、色々と検討される可能性も残されているのかなと思っている。
藤本委員	資料7の資料Aの表があるが、この数値はパーセントの表示であるか。
牛尾室長	そうである。
藤本委員	見方であるが、①生活習慣づくりのところで、2時間以上テレビゲームをする子どもの割合が示してあるが、ここでは低い数字の方が良く、逆に、その下の項目の普段、1日あたり1時間以上家庭学習する子どもの割合は高い値の方が良いということではないか。
牛尾室長	そうである。
藤本委員	目標値はどういう意味合いがあるか。
牛尾室長	平成26年度に目標値を立てているが、その時の現状値と比べ、あまりに高い目標値を立てて到達しないのも良くないため、頑張れば到達する目標値をまずは立ててというような話は聞いている。
藤本委員	承知した。
牛尾室長	現状を見て、目標値を修正することを検討したいと思う。
金本委員	質問ではないが、先ほど牛尾室長から図書館教育についてお話があったが、今朝の新聞に興味深い記事があった。学校司書をAIにさせるという記事である。学校司書の関係の協会から反対が出ているそうであるが、やはり、人は人によって人になるという梅津前教育委員長の言葉のとおり、専門的なこと等はAIが行えるかもしれないが、感情的、情緒的な部分について、人によって人になるというところが大切ではないかと思っており、今朝の記事を見てショックを受けた。
石本教育長	私も記事を見て、これは論外だと思った。こんなことはある訳ないと思うが、真剣に検討されているのは大変な世の中である。学校司書は単に本の貸し出しだけをする訳ではない。そういった部分をどこまで検討されているのか、不思議である。
	その他、委員方からご質問はあるか。
各委員	特になし。

#### 4 その他

##### (1) その他

石本教育長 日ノ原係長	その他について、事務局から何かあるか。 特になし。
----------------	------------------------------

#### 次回定例会日程

定例会 1月27日（月）13時30分から 北分庁舎2階会議室1

#### 次々回定例会日程

定例会 2月21日（金）13時30分から 北分庁舎2階会議室1

15：17 終了